

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	ソーシャル・コンピューティング (荒牧 英治 (教授))		
学籍番号	2311237	提出日	令和 7年 1月 21日
学生氏名	藤川 直也		
論文題目	書き手・読み手の孤独感に基づくデータセットの構築と孤独感予測に関する研究		
要旨			
<p>孤独感とは、身体的および精神的健康に関する重要な問題であり、死亡リスクの増加やアルツハイマー病、うつ病のリスクファクターとして知られる。特に、コロナ禍以降、孤独を感じる人々が増加し、社会的な問題となりつつある。こうした人々の早期発見と介入は重要であるが、相談できる友人や知人を持たないことが多く、その発見は困難である。本研究では、ソーシャルメディアなどのウェブ上の投稿を用いて、投稿者の孤独感の予測を目的とした。孤独感に関する標準的なデータセットが存在しないため、新たにアンテーションガイドラインを定め、感情から想起されたエピソードコーパスを基にデータセットを構築した。機械学習を用いて孤独感の有無を二値分類した結果、正解率が0.880、F値が0.833と高い予測性能を示した。さらに、読み手による評価と書き手自身が感じる孤独感が乖離している可能性を考慮し、読み手の評価だけでなく、書き手自身の孤独感の程度も含めたデータセットを構築した。読み手と書き手の評価の一致率は0.666に留まり、一定の難しさがあることがわかった。機械学習モデルが予測可能か検証した結果、読み手の孤独感については正解率が0.917、F値が0.910で予測可能である一方、書き手の孤独感の予測は正解率が0.771、F値が0.633で困難であることが明らかとなった。本研究は、孤独感の予測における課題を明らかにするとともに、データセットの構築を通じて孤独感の課題解決に向けた基盤を築いた。</p>			